

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2016年8月調査結果-

調査要領

- 調査期間 2016年8月9日～29日
- 調査対象 200社
- 回答企業 104社
- 回収率 52.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より7.7ポイント回復の▲15.4。

2014年4月以来29ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、製造業、卸売業、小売業、サービス業の4業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲12.5と当月に比べ3.0ポイント回復を見込んでいる。

業種別でみると、製造業、卸売業の2業種において回復が見込まれている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

| | 2016年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 先行き見通し 9～11月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------|
| 業況 | ▲25.6 | ▲24.2 | ▲28.0 | ▲23.0 | ▲23.1 | ▲15.4 | ▲12.5 |
| 売上 | ▲19.2 | ▲20.2 | ▲28.3 | ▲21.8 | ▲20.0 | ▲14.5 | ▲15.4 |
| 採算 | ▲20.2 | ▲18.2 | ▲26.2 | ▲29.1 | ▲16.2 | ▲18.3 | ▲18.3 |
| 仕入単価 | ▲22.0 | ▲22.3 | ▲25.2 | ▲21.1 | ▲18.3 | ▲13.5 | ▲10.6 |
| 従業員 | 26.6 | 21.2 | 24.2 | 28.5 | 31.4 | 29.8 | 30.7 |
| 資金繰り | ▲14.8 | ▲ 5.0 | ▲ 9.1 | ▲ 8.3 | ▲ 5.7 | ▲ 1.9 | ▲ 5.7 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2016年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 先行き見通し 9～11月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------|
| 建設 | ▲26.1 | ▲30.4 | ▲ 9.1 | ▲18.2 | ▲20.8 | ▲25.0 | ▲25.0 |
| 製造 | ▲23.1 | ▲11.5 | ▲16.0 | ▲ 7.7 | ▲14.3 | ▲ 3.9 | 0.0 |
| 卸売 | ▲28.0 | ▲25.0 | ▲42.1 | ▲42.3 | ▲40.0 | ▲19.0 | ▲ 4.7 |
| 小売 | ▲36.8 | ▲20.0 | ▲26.7 | ▲33.3 | ▲29.4 | ▲25.0 | ▲25.0 |
| サービス | ▲12.5 | ▲40.0 | ▲52.7 | ▲11.8 | ▲13.4 | ▲ 5.9 | ▲11.8 |

今月のトピックス（業界の声）

| | |
|-------|--|
| 建設業 | <ul style="list-style-type: none"> ・工事受注の増加から当月において大きな変動はございません。 ・10月以降の見通しが無い。本州行きを考えている ・出足の遅れ（春先）から経費の食い込み無理な受注で数年振り収支となっているが、後半取り戻すよう努力している。 ・技術者職員の不足 |
| 製造業 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も売上高の増加が見込まれる。再投資も考えているが資金面等は何とかできるが、人材不足のため不安がある。 ・売上・受注ともほぼ前年と同額で推移している。製造原価と一般管理費の微増傾向への対策が求められる。 ・価格改訂を要望すると急に取引が半減した。価格交渉がシビアになり、同業他社との競争に巻き込まれたくない。 ・残業を減らしながら人手不足の解消を同時に行なう課題に取り組んでいる。 ・既往取引先の店舗閉鎖、広告物の部数減少等が主な要因により売上減少となっている。今後もこの傾向が予測され、他の物件等での穴埋めが難しい状況にある。同業他社も同様な状況にあり競争が激化している。 |
| 卸売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度よりも業況は良い ・売上・粗利とも前年比 100%で変化は視られない。今後についても変化の材料が見当たらず現状維持しそう。ただ、新年度、定年に伴う正社員の募集をしているが苦戦している。 ・消費は低迷している。安価であっても購入しないため購入への動機付けが最大の課題。売り上げ減少を止めるには、何が何でも売上増加となる。顧客接点を多くしお客様の悩み問題を共有しながら問題解決へ導くなどの営業促進努力を行なっている。 |
| 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・好天が続く、観光や帰省などでの来店件数が増加し、燃料油販売量や洗車作業が増えている。一方、過当競争体質が依然としてあり、収益性は今ひとつ。 ・全体的に来店客の減少（インターネットの普及によりわざわざ店舗に出向く必要がなくその場で商品を購入できる）ブランド品（インポートネーム）はアウトレット店舗にて購入出来、プライスも30%～70%オフと安い。大変厳しい。差別化が図れない。 ・従業員不足が継続。11日の山の日が制定されお盆商材の売れ方が早かった。また休みが長くなり売上が期間内で薄まった。お盆以降の台風の影響で客数減が月内売上にマイナス影響。 |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> ・旭川夏まつり、さんろくまつり期間中、天候に恵まれて人出が多かった。 ・総体での収入は微減であっても、夏季になり交流人口増加と燃料代の低下が業況の後押しになっている。今後は継続したサービスの向上がカギになる。 ・インバウンド減少も社客・宴会等好調。宿泊単価アップもあり売上増収。 ・旭山動物園の人気低迷により国内レジャー客が失速。前月までは外国人旅行客の増加でカバーしていたが、当月は外国人旅行客も失速し前年割れ（競合施設が増えた影響が大きい）、先行き見通しも同様。 ・例年の如く、お盆までは順調に推移するが、下旬はあまり良くない。特に繁忙期に関しての人手不足と精通者の不足を感じる。今後もサービス業は高齢化と人手不足と労働法の問題で益々人手不足を感じながら生産性との戦いが続くであろう。今年の後半の動きは分からない。 ・仕事は前年並みだが、人件費高騰、資材費の高騰にて利益率マイナス。忙しいが利益が出ないし苦労している。ホテル単価は値下げしているが、リンネサプライは現状維持で値上に応じられず苦汁している。 ・若手技術者不足により、技術者の世代交代が進まない。 ・車輛売上・板金塗装売上減少した。 |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|---|
| 建設業 | <p>売上 DI 横ばい、採算 DI 8.4 ポイント悪化、仕入単価 DI 12.5 ポイント回復、資金 DI 8.3 ポイント回復、従業員 DI 12.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.2 ポイント悪化となった。業種別では、建築業横ばい、総合工事 10 ポイント、設備その他 5 ポイント悪化となった。10 月以降の見通しがなく本州行きを考えているとの声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI 10.7 ポイント悪化、採算 DI 4.1 ポイント悪化、仕入単価 DI 0.6 ポイント悪化、資金 DI 3.9 ポイント回復、従業員 DI 5.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 10.4 ポイント回復となった。業種別では、印刷出版 7 ポイント、家具木材 6 ポイント悪化、食料品横ばい、金属窯業他 30 ポイント回復となった。価格改訂を要望すると取引が半減した。価格交渉がシビアになり同業他社との競争に巻き込まれたくないとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI 4.8 ポイント回復、採算 DI 9.5 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、資金 DI 4.7 ポイント回復、従業員 DI 横ばいと不足感が続いている。総じて業況 DI は 21.0 ポイント回復となった。業種別では、繊維、その他で横ばい、食料品 38 ポイント、機械鋼材 33 ポイント回復となった。売上・粗利とも前年比で変化は見られず今後も変化の材料が見当たらないが新年度定年に伴う正社員の募集をしているが苦戦しているとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI 45.9 ポイント回復、採算 DI 10.3 ポイント回復、仕入単価 DI 6.2 ポイント回復、資金 DI 7.1 ポイント悪化、従業員 DI 1.9 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 4.4 ポイント回復となった。業種別では、食料品、その他、自動車横ばい、衣料品 33 ポイント回復となった。好天が続き観光や帰省等での来店件数が増加し、燃料油販売量や洗車作業が増えている一方、過当競争体質が依然としてあり収益性は今ひとつとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI 0.7 ポイント回復、採算 DI 5.9 ポイント回復、仕入単価 DI 9.7 ポイント回復、資金 DI 5.9 ポイント回復、従業員 DI 12.9 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 7.5 ポイント回復となった。業種別ではクリーニング 100 ポイント悪化、ホテル、飲食、整備業で横ばい、その他 33 ポイント、運送 50 ポイント回復となった。お盆までは順調に推移するが下旬はあまり良くない。特に繁忙期に関しては人手不足と精通者の不足を感じる。今後もサービス業は高齢化と人手不足と労働法の問題で益々人手不足を感じながら生産性との戦いが続くだろうという声も寄せられている。</p> |